

輝き続けた2つの高校！

本年4月8日、白高と白女が統合して、共学となる「白石高校」が誕生する。白高110年、白女99年の歴史と伝統が、この統合により新たな高校の歴史と伝統へと受け継がれていく。

このまちで、明治、大正、昭和そして平成と、多くの若者たちとともに輝き続け、見守ってきた2つの学校。本市では、平成21年4月から本年3月までの1年間にわたり両校を取材し、両校の最後の一年間を振り返るとともに、新しい白石高校への思いを広報しろいし4月号と5月号で紹介する。



3年4組を代表して千田校長から卒業証書を受け取る阿部佑樹さん

白高と白女、



3年4組を代表して須藤校長から卒業証書を受け取る渡邊柚香さん

最後の卒業式



たぐさんの人へありがとう！

▲あふれる涙をぬぐおうともせず、感謝の思いを語る吉田沙織さん



▲これまでの思いを胸に、卒業生を代表して答辞を述べる高橋尚也さん

男子校最後…白高魂よ永遠に

白高では、3月1日の午後1時30分から卒業式が行われた。全日制課程135人と定時制課程11人の計146人が、汗と涙が詰まった校舎に別れを告げ、新たな旅立ちを誓った。

式では、在校生を代表して2年生の我妻克哉さんが、「定期戦の応援練習で、先輩たちの勝利への執念「白高魂」を感じ、白高生としての自覚や誇り、忍耐力が培われました。そして、男子校最後にふさわしい大勝利を取め、大声で凱歌を歌い喜びを分かち合うことができました。」と、先輩たちとの思い出を語った。

また、「これまで先輩方から受け継いだ、この「白高魂」を伝承していきます」と決意を新たに誓った。

全日制の卒業生を代表して答辞に立った高橋尚也さんは、「昨年世相を表す漢字が「新」だったのに対し、この1年間は「最後」という言葉が白高を包み込みました。終わりは新しい何かが始まる合図でもあります。この益岡の地で積み上げた精神力を失うことなく、新白石高校の創立1年目を華やかに飾ることを期待します。そして、男子校最後の卒業

生として恥ずかしくないように、前向きに努力していくことを誓います」と力強く語った。

定時制課程中心校に歴史の幕

本年度に大河原商高と統合する中心校。最後の4年生7人は、「定時制のともしびを最後に大きく光輝かせよう」を合言葉にこの1年を過ごした。そして、「白高は、もう一度チャレンジする機会を与えてくれた大切な場所でした」と卒業生代表の佐久間翔太さんが思いを語り、新たな人生へと旅立つとともに、ここに62年の歴史に幕を下ろした。



▲若者たちがこの時代を切り開く

定期戦の思い出…忘れない

白女最後の卒業式に感無量

白女では、同日の午前10時から卒業式が行われた。普通科と看護科の199人が白女最後の卒業生として思い出がいっぱいの学びやお別れした。

式では、在校生を代表して2年生の梶賀まな美さんが、「先輩たちは、報われることがなくても、それまでの努力が人に自信を与え、まっすぐに未来を見つめる強い意志が、大切な場面で人を支えるのだと身をもって示してくれました」と話し、卒業する先輩たちに言葉を送った。

また、統合する白石高校で最上級生となる心構えとして、「先輩たちが教えてくれたこと、残してくれた足跡を残さず新白石高校へ持って行き、自らまたその跡を踏み固めて、新しい道をつくっていきます。白女の良き伝統を守り、さらに新たな伝統をつくり未来へとつないでいきたい」と決意を語った。

199人の卒業生を代表して答辞に立った上西恵子さんは、「白石高校との統合により、白女99年の歴史が消えてしまうのではないかと感じていましたが、優秀な後輩たちの姿を

見て、『消えない』と確信しました。新たな伝統を受け継ぎながらも白女を忘れずにいてくれることでしょう。厳しい社会の荒波の中でも、白女で培った『明るく 強く 美しく』の精神が、きっと私たちの力になってくれると思います」と、涙をこらえながら思いのかぎりを語った。

専攻科看護科は涙の卒業式に

今年で4回目となる専攻科看護科の卒業式は、午後1時から行われ、涙の卒業式となった。

1年生を代表して送辞を述べた川田祥子さんは、こみ上げる涙に言葉を詰まらせながら、「先輩たちは



▲後輩たちも涙が止まらない

私たちの憧れです。先輩たちが築き上げた看護の心を受け継いでいきます」と話し、お世話になった先輩たちに感謝の言葉を送った。

卒業生30人を代表して加藤瞳さんは「5年間で学んだ看護する素晴らしさと命の尊さ、相手を思いやる気持ちや仲間の大切さを忘れずに、それぞれの道を歩んでいきます。白女の統合はとても寂しいですが、今まで築いてきた白女の伝統は、私たちの心の中で消えることはありません」と涙ながらに語り、会場はたぐさんの涙があふれ、最後の卒業式は感動のうちに終わった。



▲5年間の仲間との別れに涙が…

ともしびの光を絶やさない



▲卒業式終了後、定時制中心校の最後の卒業生とともに、千田校長や教職員たちが一緒に記念撮影。その後の閉講式では、佐久間翔太さんが卒業生を代表してお別れの言葉を述べ、一つの歴史が幕を閉じた